
名前

椎名

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】
名前

【Nコード】
N9732X

【作者名】
椎名

【あらすじ】
あなたの名前は何か？

（前書き）

ふと思いついて書いたものです。
お読み頂ければ幸いです。

10/28 所々修正致しました。

「君は誰？」

あなたは間抜けな顔で問いかけた。いつかどこかで聞いたような声は、わずかにノイズ混じりで、聞こえ辛い。

「え？」

私は素っ頓狂な声を上げて驚く。いつも聞こえるその声は、私にとって雑音でしかなかった。

「だから、名前だよ、名前。あるでしょう？」

あなたは不思議そうな顔で問いかける。聞いている意味が分からないと言った感じの表情は、どこかもどかしそうだ。

「ああ……」

私は上の空で返事をした。名前なんてどうでもいいような気がした。

「僕は、……だよ」

あなたの声は聞き取れない、聞き取れない。

「私は」

私の言葉は届かない。

私の声は、私を掻き消す。

「私、は」

私の声は聞こえない。

耳障りな雑音なんて、聞きたくなどない。

「君は」

ただ、ただ、あなたの声だけが鈍く反響する。

「教えて、君の名前を」

あなたは私を急かす、咳かす。喉が渴いて、声が出せない。

あなたは笑わない。

「私、私の、名前」

私はあなたが分からない。

「大丈夫、大丈夫だよ。君は」

あなたが口を動かす。

酷く乾いた唇で。

聞きたくない言葉を。

その声は、届かない。

「君は、僕だろう？」

届かないんだよ。

「だから、教えて。僕は、君は」

どんなに叫んだって。

「誰なの？」

その答えは、出ない。

（後書き）

お読み頂きありがとうございます。

誤字・脱字等ございましたらご指摘頂けると幸いです。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9732x/>

名前

2011年11月11日10時02分発行